

公益財団法人日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年10月27日

氏名 (フリガナ)	望月 恵
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2017年10月8日 (日) ~ 10月14日 (土)
所属機関名	静岡市立清水病院
身分	一般

今回、海外研修でアメリカのポートランドへ行かせていただきました。

医療の最先端であるアメリカの医療施設を見学できたことは、私にとってとても刺激的な体験となりました。アメリカは病棟に就職するため、その分野に関しての知識は豊富で、とてもプロ意識が高いと感じました。仕事内容も、日本では患者のアセスメントから日常生活のケアまで多様化していますが、アメリカでは仕事内容がはっきりと区別されているため、患者の状態をアセスメントする時間が確保でき、より患者により看護を提供できているのだと思いました。また、州によっては、日本では医師しかできない処置も看護師が行っており、知識の豊富さと医療技術の高さにとても驚きました。

特に印象に残っている施設は ICU です。病室は感染防止のためにすべて個室になっており、病室の床頭台の中に簡易トイレも併設されていました。この病院では、親族・友人であればいつでも面会が可能という点にも驚きました。また、全ての患者に対し入院時からソーシャルワーカーの介入があり、家族の精神的なフォローや退院調整まで関わっていくとのことでした。集中治療室に入室した家族は、突然の入院であることや普段見慣れない医療機器が多くある環境にとっても動揺や不安を感じると思います。私の勤務している病院では、家族の精神的なフォローは主に看護師が行っています。しかし、夜間帯など看護師の人数が不足している時間帯では家族とゆっくり関わる時間がなく、家族の精神的な不安を軽減できているのか不安に感じることがあります。入院時からソーシャルワーカーが介入することで家族の不安の軽減に繋がるのではないかと思います。

また、アメリカでは入院日数が短いことも知りました。これはアメリカの現在の医療制度が大きく関係しているのだと思います。アメリカでは、医療保険や医療費が高額なうえ、救急車を利用するにもお金がかかるため市民の負担がとても大きいそうです。低所得者をサポートする制度もあるそうですが、生活を継続していくことが困難でホームレスになる人も少なくないと聞きました。日本では、救急車を使用することに対してもお金がかからず、タクシー代わりに使用する人も多く救急車不足が問題となっています。どちらの国の医療制度もメリット・デメリットがあると思いますが、日本はとても医療制度が充実しており、とても恵まれた環境で生活できているのだと感じることができました。

海外研修を通して学んだことを、今後の臨床現場で少しずつ返していけるようにしていきたいです。この度は助成金を頂きありがとうございました。